

「花山小学校セカンドスクール」実施報告書

- 1 趣 旨 国立青少年教育施設の役割の一つである学社融合を一層推進する観点から、当施設がもつ教育環境・教育資源を活用した体験的な学習活動を展開し、新学習指導要領が目指す児童の生きる力の育成を図る。
新学習指導要領の教育課程に沿ったプログラムを提供し、実施することで、今後の当施設での学校向けのプログラムの検証を行う場とする。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
- 3 共 催 宮城県栗原市立花山小学校
- 4 協 力 花山小学校協働教育推進委員会 栗原市ホッケー協会 栗原市食生活改善推進協議会
- 5 期 日 令和7年2月12日（水）～14日（金）【2泊3日】
- 6 参加者 花山小学校児童 1～6年 男5名 女4名 計9名
- 7 場 所 国立花山青少年自然の家
- 8 企画・運営のポイント
 - ・最後の冬のセカンドスクール（次年度は冬季休館のため）ということで、ソリ滑りやチューブ滑り、スノーシュートレッキング、バナナボート、スポーツ雪合戦、もちつきと冬季しかできない体験活動を中心に計画した。
 - ・事前打ち合わせを繰り返し行い児童情報や学校のニーズを細かく把握し、安全管理体制を整えて実施した。
 - ・栗原市ホッケー協会や栗原市食生活改善推進協議会、仙台大学スポーツマネージメント実習生など、様々な方と触れ合い、コミュニケーションを図ったり、協力したりする機会を設けた。
 - ・「自然」「挑戦」「協力」というテーマを示し、児童が目標を持ちながら主体的に事業に取り組めるようにした。
- 9 日 程

令和6年度「花山セカンドスクール」日程表

2月12日（水）	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
学校出発	出発のついで	スクールタイム 1・2校時 通常授業 3・4校時 雪遊び…ソリ、チューブ ※雪なし…運動遊び	昼食（弁当） 休憩	スクールタイム ホッケー教室 ※栗原市教育委員会協力	終わりの会	自学タイム	つどい	夕食（食堂）	はなやまタイム （自然物を使ったクラフト）	入浴 休憩 準備	就寝						
学校職員 & 自然の家職員 & 実習生										自然の家職員 & 実習生							
2月13日（木）	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
起床	洗面・清掃	つどい	朝食	準備	朝の会	スクールタイム 1校時 通常授業 2～4校時 雪上活動…スノーシュー、雪合戦 ※雪なし…スポーツ雪合戦	昼食（食堂） 休憩	スクールタイム 通常授業	終わりの会	自学タイム	つどい	夕食（食堂）	はなやまタイム （実習生によるレクリエーション）	入浴 休憩 準備	就寝		
自然の家職員 & 実習生				学校職員 & 自然の家職員 & 実習生								自然の家職員 & 実習生					
2月14日（金）	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
起床	洗面・清掃	つどい	朝食	退所点検	朝の会	スクールタイム 1校時 通常授業 2～4校時 もちつき ※栗原市食生活改善推進協議会協力	昼食（もち） 休憩	スクールタイム	別れのつどい	自然の家出発	学校着・下校						
自然の家職員 & 実習生				学校職員 & 自然の家職員 & 実習生													

10 活動の内容について

【2月12日（水）1日目】

スノーシューハイキング



バナナボート



ホッケー教室



クラフト体験



【2月13日（木）2日目】
スクールタイム



スポーツ雪合戦



自学タイム



学生企画



【2月14日（金）3日目】
もちつき



お昼ご飯の様子



感謝の手紙贈呈



10 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：100% やや満足：0% やや不満：0% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・苦手だと思っていたものが食べられるようになった。(2年)
- ・寝るのがこわくなくなった。(3年)
- ・バナナボートが一番思い出に残った。(2年)(3年)
- ・実習生といっしょに遊べたことと一緒に学習したことが一番思い出に残った。(5年)
- ・一番思い出に残ったことは、おもち作り(5年)
- ・一番思い出に残ったのは、チューブ滑りとクラフト制作(看板づくり)(6年)
- ・自分が成長できたと思うのは、みんなに呼びかけたり、説明できたりしたこと。(6年)
- ・セカンドスクールをもっと長くしてほしい。(3年)
- ・またいつかできたら冬のセカンドスクールがしたい。(5年)
- ・内容も良かったです、3日間の活動の流れに人の動きが細部にわたって計画されていて、安心して参加できました。(花山小職員)
- ・今年度は雪がたっぷりあり、子どもたちはたっぷり雪上活動ができました。2日目のスポーツ雪合戦も2度目ということもあり、楽しめました。もちつきは普段できない体験となりました。(花山小職員)

(3) 成果

- ・生きる力育成のため、花山の環境・資源を活用した体験的な活動を展開し、児童の高い満足度を得ることができ、個人の成長へつなげることができた。
- ・冬季活動プログラムについて、安全面及び活動内容の検証することができた。
- ・地域の方や実習生など様々な方に協力いただき、より安全で充実した活動を実施できた。

(4) 課題

- ・生きる力と各プログラムのつながりを明確にし、共通理解を図る必要があった。実施踏査などを事業担当だけでなく、他の職員に協力を仰いで行えば、より正確な検証となったと思う。
- ・学校や児童からの需要が高い事業のため、次年度以降冬のセカンドスクールを実施できないのが悔やまれる。次年度は、夏の花山の環境・資源を活用した体験的な活動を実施していきたい。